

日本木材学会 ダイバーシティ推進委員会

ダイバーシティ推進委員会とは

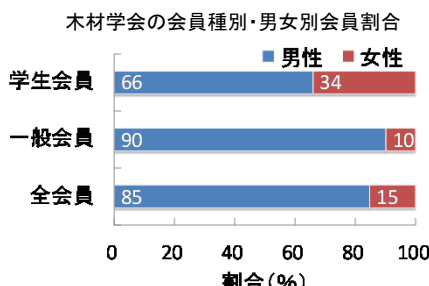
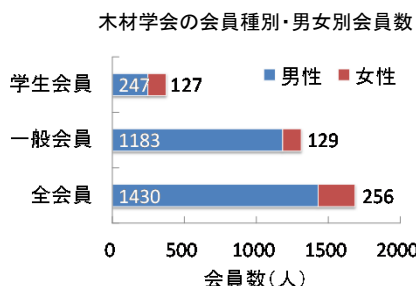
- 2011年に発足し、2年間の活動を行った男女共同参画委員会は2013年にダイバーシティ推進委員会として新たなスタートを切りました。
- 第1期(2011・12年度)男女共同参画委員会は、男女共同参画学協会連絡会行事への出席や、(独)国立女性教育会館主催「女子中高生 夏の学校」への参加(ポスター展示・キャリア相談)などに積極的に取り組んできました。
- 第62回大会(札幌)では「男女共同参画に関するアンケート」を実施し、第63回大会(盛岡)にてその結果を報告しました。
- 今期のダイバーシティ推進委員会はより多様な立場の方々の多様な形での学会参加を促進することを目的に11名の委員で活動しています。



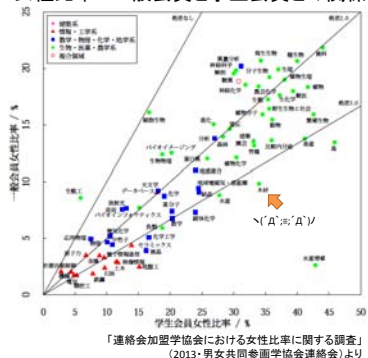
ダイバーシティ=多様な組織の中に多様な人材がいる方が、より柔軟で発展性のある組織となると考えられています

これまでの活動など	
2010年	男女共同参画学協会連絡会加盟
2011年	7月 男女共同参画理事設置, 委員会発足
	10月 第9回男女共同参画シンポジウム参加
2012年	3月 第62回大会(札幌)ポスター発表, アンケート実施
	8月 女子中高生夏の学校2012参加
2013年	10月 第10回男女共同参画シンポジウム参加
	3月 第63回大会(盛岡)ポスター発表 ランチョンミーティング開催(森林学会との共催)
	7月 ダイバーシティ推進委員会発足
2014年	8月 女子中高生夏の学校2013参加
	3月 第64回大会(松山)ポスター発表, ランチョンミーティング開催 (愛媛大学 女性未来育成センターとの共催)

木材学会の現状



女性比率：一般会員と学生会員との関係

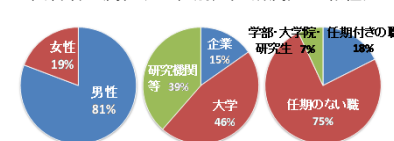


学生会員における女性比率に対して一般会員における女性比率が非常に低いことが木材学会の特徴です。ダイバーシティ推進委員会では**若手女性会員の比率増加に向けて様々な方策を提案していきます。**

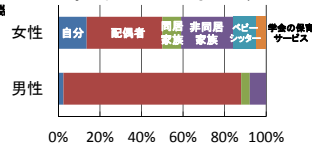
男女共同参画学協会連絡会 第3回大規模アンケート

- 2012年11～12月「第3回科学技術系専門職の男女共同参画実態調査」には**木材学会から275件の回答をいただきました**(連絡会加盟学会による全回答数は16,314件)。ありがとうございました。
- 木材学会会員による回答の一部をご紹介します。
- 全回答に関する報告書は男女共同参画学協会連絡会のウェブサイトから参照可能です。

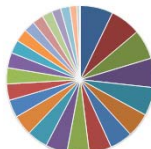
回答者の属性(左:性別, 中:所属, 右:職種)



学会参加などの出張時の育児を主に担当したのはどなたですか



仕事と育児、介護との両立に必要なことは何だと思いますか？



- 勤務時間の弾力化
- 上司の理解
- 保育園のサービスの拡充
- 職場の雰囲気
- 介護サービスの拡充
- 仕事中心の考え方を変える
- 育児・介護の意識を変える
- 職任接近
- 子育ての拡充
- 休業中に自宅で仕事を継続できる仕組み
- 労働時間の短縮
- 育児・介護への経済支援
- 多様な就業制度
- 業務サポート
- 多様な働き方(多様なキャリアパス)
- 夫婦の同居家事サポート
- 育児休業の増加
- ワークシェアリング
- 休業中の代替要員
- 産後で在宅ワークサポート制度等の拡充
- 事業者の勤務先への公的補助
- 任期制度など雇用形態の改善
- 法案の向上
- 特になし

「決め手」があるわけではなく、必要だと思う方策は人それぞれであることがうかがえます。

ランチョンミーティングのお知らせ

昨年に続き第2回ランチョンミーティングを下記の通り開催します。

2014年3月14日(金) 12:00～13:00
愛媛大学城北キャンパス
共通教育講義棟 講32 (第6会場)

●プログラム●

- はじめに 恒次 祐子(ダイバーシティ推進委員会委員長)
- 話題提供
鍋嶋 絵里氏(愛媛大学農学部生物資源学科)
「研究と子育てとの両立...?」
安部 久氏((独)森林総合研究所木材特性研究領域)
「男女共同参画と私」
柿原 文香氏(愛媛大学女性未来育成センター 副センター長)
「愛媛大学の取組」
- ディスカッション
コーディネーター: 堀沢 栄(ダイバーシティ推進委員会委員)
- おわりに 中山 榮子(ダイバーシティ推進委員会副委員長)

軽食と飲料を用意してお待ちしています
(無料:先着35名まで)